

各ルート・拠点の見直し案

拠点Cの見直し（案） （観光と賑わい）



拠点Cは、堤防を活かしたまちづくりを実践し、観光と賑わいを創出する拠点である。拠点D（中瀬）や住吉公園との連携も視野に入れる。

- 水辺と堤防を活かしたまちづくりの実施
- 中心部の賑わいを呼ぶオープンスペースの創出
- 各種イベントの開催にも活用できる水辺空間の提供

雄大な旧北上川を眺めながら石巻の食を堪能する
「食彩・感動いしのまき」

拠点の見直し(案)

- ・プロムナードの中核としての拠点であり、雄大な旧北上川を眺めながら石巻の食を味わうなど観光的な要素を含んだスポット（対岸の中瀬と連携も考慮）
- ・中央街区は、堤防整備を活かした再開発を検討していることから、人々が集える空間とするための工夫・配慮を行う。

なお、拠点Cでは、下記の点に留意する。

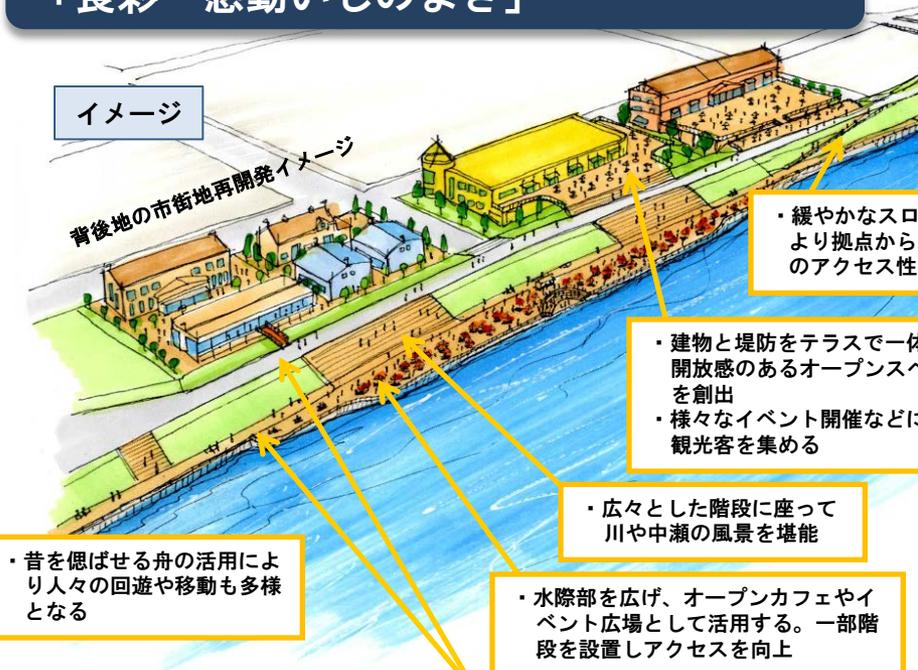
- ・水辺に人々が集いたくなるような変化をつけた整備を行う。また、水辺テラスやオープンテラスでさまざまなイベント等の実施が可能ようにする。
- ・集客施設と堤防、水辺を結び一体となった空間を創出し、バリアフリーにも配慮したアクセス性の向上を図る。
- ・堤防や水際の利活用としては、以下のものが考えられる。

- オープンカフェ：堤防や水際のプロムナードのオープンテラスにおいて、旧北上川（中瀬を含む風景等）を見ながらカフェや食事を楽しむ場を設ける。
- 船着場：昔の風景を偲ばせる渡し船など、石巻湊の歴史・文化の要素である舟運を感じてもらう活用にも配慮する。
- 水際広場：本拠点の水際は、他の箇所よりも幅の広い散策路を設けたりすることで、オープンカフェやイベントスペース等として活用し、一部には親水性を高めるための工夫をする。

雄大な旧北上川を眺めながら石巻の食を堪能する 「食彩・感動いしのまき」

イメージ

背後地の市街地再開発イメージ



・緩やかなスロープにより拠点から水辺へのアクセス性を向上

・建物と堤防をテラスで一体化し、開放感のあるオープンスペースを創出
・様々なイベント開催などにより観光客を集める

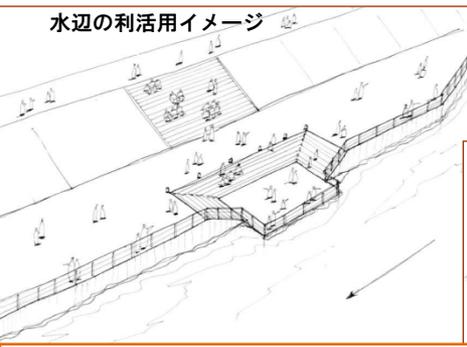
・広々とした階段に座って川や中瀬の風景を堪能

・水際部を広げ、オープンカフェやイベント広場として活用する。一部階段を設置しアクセスを向上

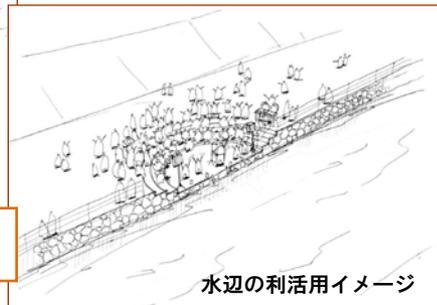
・堤防天端と水際部が散策路となり、視点場を変えながら川の風景を楽しむ

・昔を偲ばせる舟の活用により人々の回遊や移動も多様となる

水辺の利活用イメージ



水辺の賑わいを創出するための水際部の工夫を行う。



水辺の利活用イメージ

※上図は堤防背後の再開発部分から水辺に至るプロムナードの全体的なイメージです。

利 活 用 方 策

●川を眺めながら石巻の美味しいものが堪能できる施設の立地も含め、川を活かした再開発が検討されている。



▲広島 京橋川 水辺のオープンカフェの例



▲水辺のミニコンサートのイメージ

- 歴史・文化を伝える案内看板やサインを設置。
- 駐車場等、集客するための関連施設整備を行う。
- 昔の風景を偲ばせる渡し船などを小規模でも再現するなど、人々の回遊や移動手段として活用する。

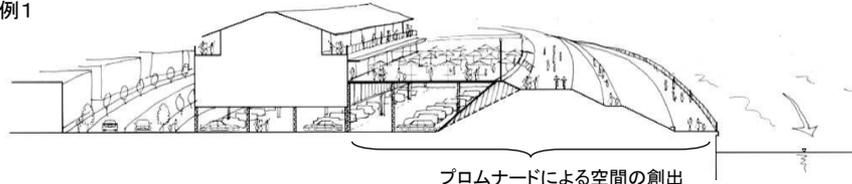


▲案内看板やサインのイメージ

堤防と背後地の接続イメージ

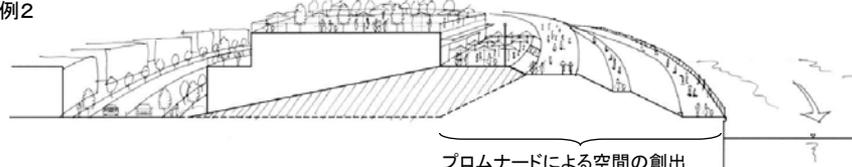
- 背後地の再開発と連携し、堤防と一体となったプロムナードを検討する。
- 川を眺めながらゆったりカフェや食事を楽しめるような空間を創出する。

例1



プロムナードによる空間の創出

例2



プロムナードによる空間の創出

各ルート・拠点の見直し案

拠点Dの見直し（案） （石巻の歴史と文化の伝承）



- 石巻の歴史と文化の伝承
- 水辺に親しみ、近づくことができる親水空間の整備
- 拠点C（観光とにぎわい）と連携し、集い、憩い、交流の空間を形成する

川と共に暮らして「かわみなと・石巻」の歴史と文化の伝承
「『石巻の歴史』と『水と共に生きた文化』を伝えるシンボル空間」

拠点の見直し(案)

- ・石巻の歴史の面から、中瀬と右岸の住吉公園・雄島も含めて拠点Dとして設定する。なお、本拠点は、拠点Cとの連携により、多くの観光客や市民が集まり、回遊する拠点となる。
- ・中瀬は、千石船を建造してきた歴史、湊町の記憶や暮らしの面影、歴史や文化を感じられる空間として拠点性を高める
- ・石ノ森萬画館やハリストス正教会など観光ポイントとして活用する。
- ・住吉公園・雄島は、数々の歴史・史跡があり、中瀬と一体となった拠点とする。

なお、拠点Dは下記の点に留意する。

- ・左右岸からの景観や市街地との一体感、交流を演出する工夫により観光拠点の機能性を高める。
- ・例えば、取り壊し予定の古い町家の移築や看板等の工夫により、水と共に暮らしてきた石巻の歴史・文化を感じられる空間とする。
- ・水際部には転落防止柵を設置し、万が一落ちた場合でも上れるよう梯子や浮環を等間隔で設置する。また、人が多く利用する階段には手すりを設ける。

川と共に暮らして「かわみなと・石巻」の歴史と文化の伝承 『石巻の歴史』と『水と共に生きた文化』を伝えるシンボル空間

利 活 用 方 策

- プロムナードの全体図や現在位置がわかるように看板やサインを設置して、プロムナードを巡る散策の推進を図る。
- プロムナードとして観光としての拠点性が高まる様な整備を検討する(例:中瀬を一周できる散策路の整備と散策ツアーの企画など)
- プロムナードの利活用が進むようにイベント開催などを推進。

▶
中瀬からの素晴らしい水辺の景色



▲ 第四回北上川石巻湊公開講座による歴史探訪会

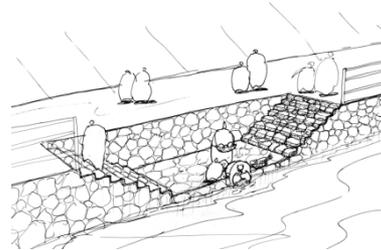
- 中瀬は石巻・北上川観光の重要なポイントであり、プロムナード散策の拠点(集い、歴史探訪の基点)でもあることから、石巻の歴史・文化のシンボリックなモニュメント設置や史跡を紹介する施設や案内サインの設置を検討。
- 北上川舟運の発着所や渡し等の舟運の歴史を集積し、それらの伝承と舟の活用も考えられる。
- 市民との協働によって歴史・文化の集積を、推進する。



▲ 舟運と造船の歴史を偲ぶモニュメント

■住吉公園(雄島)周辺

- ・昔は渡し船の発着場所として利用されており、「袖の渡し」という歌枕になるほどの場所である。
- ・生活の場としても水辺に人々が集まっていた。
- ・石巻の地名の由来と言われている「巻石(まきいし)」がある。
- ・水辺との繋がりを重視した位置づけとして拠点の一部を構成。



水辺の整備イメージ

○休憩・運動機能、親水機能

- 水辺に親しみながらゆっくり過ごすことができる場の創出
- 浅瀬をつくり、水遊びや釣りなどができる場所を再現

○歴史文化展示、歴史遺産伝承、歴史体験機能

- ・石巻の歴史と文化を感じられるミュージアム機能を持った展示施設が考えられる。
- ・中瀬は造船の歴史にちなんで、船の模型を製作し、水辺に浮かべる場所などが考えられる。
- ・昔の街並みを復元して、その中に展示物を入れる。
- ・既存の造船スロープの活用や千石船のモニュメント整備なども考えられる。

※堤防はイメージであり確定したものではありません。
※中瀬公園は今後具体的な検討が行われる予定です。
※橋梁は今後具体的な検討が行われる予定です。

イメージ

○水面利用機能

中瀬と市街地を結ぶ渡し船や、中瀬一周の周遊コース(ミニクルーズ)などが考えられる。



釣り大会の様子

視点C(再開発予定地区)

渡し場等の舟活用

連続植栽(並木道)等